

第 20 号発刊記念臨時特集企画「現場研究報告」（責任編集：東村知子）（2021 年）

綾城初穂

修復的实践としての生徒指導

——修復的対話という視点から

石田喜美

現代日本の司書・図書館関係者におけるネットワークと創造性

矢守克也・舟橋宗毅・岡田夏美・原夕紀子・中野元太

巣ごもりフィールドワーク

——コロナ禍におけるリモート防災実践の現場から

中村聖子・上田敏丈

保育の記録における F-SOAIP 援用の有用性の検討

小松智子

発達障害学生の就職プロセスにソーシャル・サポートが与える効果

——事例分析を通して

曾山いづみ・大西真美・杉本美穂・大瀧玲子・山田哲子・福丸由佳

離婚を経験した家族に対する心理教育，FAIT プログラムのオンライン試行実践

横山愛

教師は指名されていない児童の発話をどのように授業に活かすのか

——授業計画が変更される場面に着目した事例分析

松原悠・矢守克也

大規模災害からの復旧戦略検討における「タイムライン・メディエーション」手法の開発

木谷岐子

自閉スペクトラム症の女性当事者同士による対話の効用

——「自分」が語り出される，まさにその時に着目して

日高直保

ある乳がんサバイバーにおける対話の意義

——A さんのライフヒストリーを通じた考察

村上幸史

日系社会における「運資源物語」

園部友里恵

何が現職教員学生を「学習者になること」から妨げるのか

——模擬授業実践における学部新卒学生との経験差に着目して

中野元太・矢守克也

チェーンド・ビジュアル・エスノグラフィの展望

——防災アクションリサーチの多声的・多角的現実の表現

酒井晴香・栗原翔吾・齋藤有史・原仲碧

スポーツ・コーチングにおける言語使用の分析可能性

——サッカー競技にみられる「テンポ」と「リズム」に着目して

杉山高志・矢守克也

「Days-After」の視座を用いた現場研究

——「未来へのメモワール」の実践活動を例に

宮本匠・石塚直樹

被災者による復興省察と災害伝承のための予備的考察

——“久夫の独り言”の意義と可能性

坂井田瑠衣・坊農真弓

盲ろう者にマルチモダリティを伝える指点字通訳者のワーク

中山博晶・長津結一郎

障害のある人が「役者」になることの意味

——A文化センターでの演劇ワークショップを事例に

山本敦・門田圭祐・牧野遼作・古山 宣洋

ピアノレッスンにおいて指導の焦点となる演奏音への指さし

——記号論的領野に着目した身体的実践へのアプローチ

妹尾麻美・三品拓人・安田裕子

子どもを「産む」と決めること

直井玲子・園部友里恵

なぜ私たちはインプロとジェンダーの実践研究をしなければならなくなったのか

——「ザ・ベクデルテスト」との出会いをめぐる相互インタビューから

森弥生・日高友郎・福島哲仁

東北地方における吃音当事者の課題と支援ニーズ

——テーマティック・アナリシス法を用いた青年期当事者の語りの分析

古屋由美

言語機能の協同改善を目指す場としての言語聴覚療法

——IRE連鎖に着目した相互行為分析

山田哲子

知的障がい者家族の親亡き後に備える心理教育プログラムの実践

——心理および司法の専門家の協働の試み

坂井志織・細野知子・小林道太郎・榊原哲也・福井里美・杉林稔・菊池麻由美・鷹田佳典

病い経験の可視化・共有化の社会的実験

——地域住民参加型「生き生きカフェ」プログラムの開発実践

上西智子

長期海外インターンシップ参加学生のオンラインコミュニケーションにおける用途の変化と

居場所の拡大

尾見康博・藤根美穂

部活が中学生を不登校へと追い詰めるプロセスに関する事例研究

宮原資英・増田貴人

発達障害児の療育支援現場におけるエスノグラフィー

——楽しそうな運動活動から身体的リテラシー育成のニーズを探る

田中千尋・サトウタツヤ・土元哲平・宮下太陽

複線径路等至性アプローチにみる看護教員の力量形成プロセス

——臨床現場から立ち上がった問いと対峙し続ける教員の語りから

市川奈緒子・仲本美央

園長はいかに持続可能なインクルーシブ保育を創出しているのか

——保育を支える陰の努力の解明

信重綾・澤田英三

ひきこもり支援機関における社会復帰に向けた支援の変遷過程

——回復事例に基づく検討

西山萌

認定こども園における進級児・新入園児のかかわりの分析

——コロナ禍での3歳児クラスの事例から

永杉理恵・若鍋久美子

障害のある子どもの即興による音楽表現活動

——ある打楽器奏者の特別支援学級におけるワークショップから

日本質的心理学会発足 20 周年記念 「現場研究報告」(2024 年)

井上義彦

都市生活者による野生動物の屠殺解体体験に関する質的研究

——A 氏の体験の語りから

松原悠

2017 年和歌山県新宮市長選挙におけるある候補者の選挙前後の心理過程

杉山高志・矢守克也

未来に関する語りをめぐる現場研究

——高知県黒潮町における防災ツーリズムを例に

鶴岡尚子・古井克憲

包括的性教育は教師にどのような認識の変化をもたらすのか

——特別支援学校の女性教師の事例

北村篤司・北村つかさ

夫婦間の対話を促進するための実践の試み

——共通性と差異から生じるリフレクティングに注目して

中野元太・矢守克也・岡田夏美・杉山高志

インターローカルな防災教育の展開

杉山陽香・川島大輔

生徒の問題行動に対する教師の問題観

——生徒の問題行動に対する教師の問題観

曾山いづみ・山田哲子・本田麻希子

親の離婚を経験した子どもの語りの変化

——フォーカスグループインタビューにおける相互作用に着目して

依田尚也

ある心理専門職における学派選択の内実

——ユング派を選択した A さんのライフヒストリーから

原田亜紀子

Diversity of Students' Perceptions of a Global Citizenship Programme at High School

: Focusing on their Narratives after Graduation

(グローバル・シティズンシッププログラムの生徒の受容の多様性——卒業生の語りに焦点を当てて)

広津侑実子

心理職は聴覚障害のある人をどのように認識しているのか

——聴覚障害のある／ CODA の心理職と聴者の心理職の語りの比較から

田中千尋・サトウタツヤ・土元哲平・宮下太陽

COVID-19 危機に対峙した看護教員の力量形成プロセス

——複線径路等至性モデリングによる経験の可視化

若松亮太

知的障害特別支援学校における学びの場としての地域協働は何をもたらすのか

大瀧玲子

成人期にある知的障害を伴わない発達障害者のきょうだいの体験に関する研究

——9 年後のペアデータの重ね合わせを通した変化の検討

酒井晴香

個人商店における出会いの予測可能性とあいさつ行為

澤田英三・原田秋穂

プレーパークで展開する子どもの遊びの図式化

——継続的な参与観察による遊びの難易度と関与度からの検討

太田礼穂

作品作りを通じた鑑賞活動に教室空間の不在が及ぼす影響

竹田琢

学生は雑談することによって何をしているのか？

——授業内グループワークにおける雑談の相互行為分析

河合直樹

社会福祉施設における書道教室のアクションリサーチ

——知的障がい者の主体性を創出する共同的書道実践の提起